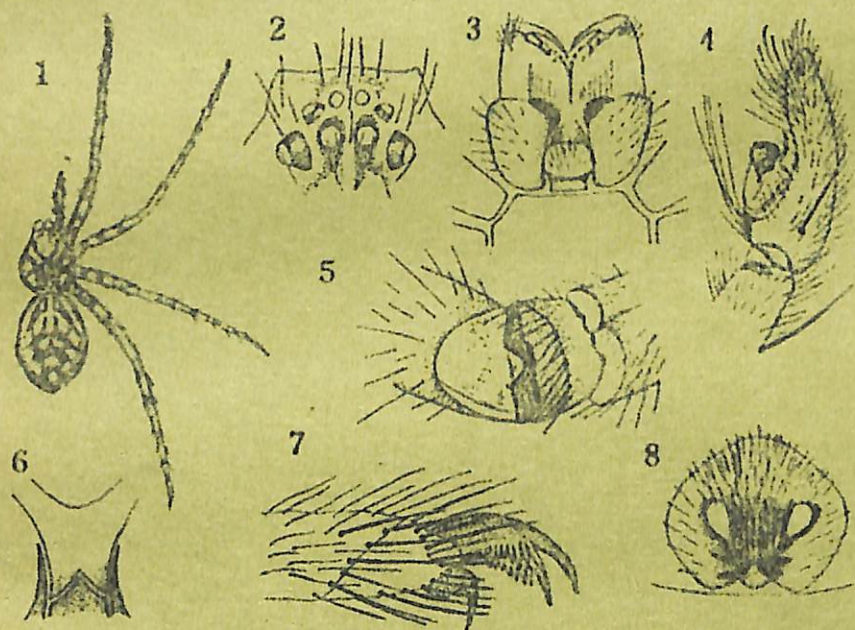


し の び ぐ も

第 3 号



Cispius orientalis YAMUMURA

1975

三 重 ク モ 談 話 会

し の び ぐ も

第 3 号

1 9 7 5

-
- クモ外雌器に見られる
付着物について 松本誠治 1
- 三重県下のキシウイトテグモ・キノボリ
トクテグモ及びワスレナグモの分布について 孫福正 3
- 南島町における真正クモ類目録
(第一報) 南島高枝生物クラブ 5
- 東亜蜘蛛学会第7回大会を
津市で開催して 太田定浩 9

-
- 会員名簿 11
- 昭和50年度決算報告 12
-

三 重 ク モ 談 話 会

表紙説明

Cispius orientalis YAGINUMA

ミノビクモ (キジタクモ科)

1965年5月4日、三重大学平倉演習林(三重県一志郡美杉村川上)にて、橋本理市氏が採集。新種として記載された。
図は八木沼健夫氏の御好意により、ACTA ARACHNOLOGICA Vol. 20 No. 2より転写したものの。

1. Dorsal view (♀)
2. Eye area (♀)
3. Mouth part (♀)
4. Palp (♂)
5. Trochanter (♀)
6. Pedicel (♀)
7. Onychium and claws (♀)
8. Epigynum (♀)

クモ外雌器に見られる付着物について

松本 誠 治

クモの標本をみていると、外雌器部分が大変汚れているものときれいなままのものがある。同種の標本でさえ下手をすればこの汚れによって全く違うものとみてほつことがあるので、このこと(広義にいえば、アーティファクト)をいつも頭に入れてクモの同定や形態観察にあたっている。これは観察する側からいえることであるが、クモ自体にとっては、この汚れは何を意味しているのだろうか。場所が場所だけに雄との交渉後起ったことと関係するもの自然であらうか、あるいは産卵した際に卵液が付着してかたまってほつたものかもしれない。雄との交渉に原因があると考えると、大変意味深いものになる。

いくつかの例を掲げると、シラヒゲハエトリの外雌器は、大変大きくくぼんでいる。その下方(クモでいえば後方)に開口部があるが、このくぼみ全体に——開口部も覆って——赤褐色の表面はザラザラとした塊がおさまっていることがある。これをそのままにしてみると、シラヒゲハエトリの外雌器は、洋梨型のあるいはダルマ型の輪郭でその中は粗面で赤褐色の低い隆起になっていて、開口部は明瞭でなく輪郭のところに深い溝になってあるのかと思われる。しかし実際は違ふ。このように実際はくぼんでいる部分が逆に隆起したりあるいは平らになってしまっているのはマダラスジハエトリでもみられた。また貝登憲治氏採集のシロシロウジョウグモの雌の場合には、その外雌器に透明な褐色の膜が付着していた。透明であることがシラヒゲハエトリやマダラスジハエトリの場合とちがう。形はちやうど外雌器の輪郭を示し、膜の内側からは、右の開口部に突出物が入り込んでいた。この膜は単なる汚れとはいえない程に精巧なものだった。

Levi (1970)には、Dahl, Wiehle, Bhatnagar & Rempel, Abalos, Baez, Mc-Crone, Levi, Gerhardt および Levi の業績を紹介して、Latrodectus や Argiope では、交渉後雄の Embolus の先端が折れてしまって雌の外雌器の管の中に残していくことが、また Araneus では Embolus の先端が変形し cap になり、交渉後この cap を置いていくことが記されている。そして、Araneus の雌においては cap があって精液の注入が可能なのか、cap のとれてしまった雄は第2・第3

の交接を成功させられるのか、また雌においては、capで管がふさがれた後(すなわち第2回以後)交接でき、精液の受入れが可能なのか、という疑問が提出されている。

シラヒゲハエトリ、マダラスジハエトリそしてシロスジジョウジョウグモで見られた外雌器開口部の栓は、Levi(1970)にみられた Embolus の折れ残りや cap と同じ可能性を雌側に引き起す、精液の流出およびそれ以降の交接を防止することに役立っているようにも見える。

(27-TX-1975 脱)

[文献]

貝養憲治(1974):三重県南部地方の真正蜘蛛類目録
(追加)。1のびぐり, (2): 12-18

Levi, H. W. (1970): Problems in the Reproductive Physiology of the Spider Palpus. Bull. Mus. Natn. Hist. Natr., 2^e Ser. 41 (suppl. 1) : 108-111

三重県下のキシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ
及びワスレナグモの分布について

孫 福 正

筆者は昨年県下の社叢のフケ調査をし、また紀伊方面が残って
はいるが、現段階に於いて、各地でキノボリトタテグモの葉袋や
クモを得ているし、又、ワスレナグモの葉も2・3確認したので報
告しておく。これはフケ調査が主であって、その副産物として
採集した資料の整理のときに、葉袋を発見するということが予
多かつた。従って実際にはもっと各地に発見されることは予
測される。

キノボリトタテグモ以外は写真を利用し、資料は大部分筆
者の手許に保管している。

採 集 記 録

- (1) キミノウエトタテグモ
1. 伊勢市内宮、石垣の間の土中 25-VI-1974.
 2. 伊勢市外宮、石垣の間の土中 26-VI-1974.
- (2) キノボリトタテグモ
1. 桑名郡多度神社、石垣の岩上側面の
フケsp.の群落中 4-VII-1969.
 2. 四日市市高西町神前神社、クス幹 2-VI-1975.
 3. 四日市市河原田神社、クス幹のトモチイフケ群落中 20-VIII-1975
 4. 安芸郡芸濃町椋本神社、とうろう台石側面の
クロアヤステゴケ群落中 9-IX-1975
 5. 上野市猪田町猪田神社、朽株の
ヒメトサカゴケ群落中 12-XI-1975
 6. 津市澁田石積神社、岩上側面の
シヅクウボウオウフケ群落中 9-IX-1975
 7. 津市小丹神社、岩上側面の
コバノイトゴケ群落中 25-VIII-1975
 8. 久居市戸木敏太神社、ミイ幹 17-VI-1975
 9. 一志郡白山北畔神社、岩上のミダの原葉体の群落中 1-X-1975
 10. 一志郡喜野町中原神社、タブノキ幹 9-III-1975
 11. 名張市黒田無動寺、石垣側面のツヤゴケ群落中 27-VI-1975
 12. 名張市名張字流島志弥神社、石垣の間のセメントの
ウニバヤネゴケの群落中 27-VI-1975
 13. 度会郡御蘭村高向神社、クス幹のトサノコミツケ子 25-XI-1975
 14. 度会郡御蘭村御蘭神社、クス幹のトサノコミツケ子
ジミリヤゴケ群落中 26-XI-1975

- 15. 伊勢市外宮 ?幹の?コケ群落中 2-VII-1952
- 16. 伊勢市旭 カキ幹のツヤコケ群落中 8-IX-1942
- 17. 伊勢市朝熊山麓 岩上側面SPコケ群落中 17-XII-1967
- 18. 飯南郡飯高町水屋神社 本殿の石垣側面の
チドリコケ群落中 18-VII-1975
- 19. 多気郡大台町柝原川津神社 石段岩上側面の
シゲウホウチコケ群落中 27-V-1975
- 20. 志摩郡安乗神社 朽木のSPコケ群落中 5-XI-1975
- 21. 鳥羽市石鏡神社 岩上の土上の
ツチノウエノコケ群落中 4-XII-1975
- 22. 志摩郡阿比町立神神子ス クス幹のワケコケ群落中 5-XI-1975
- 23. 度会郡南勢町押淵 モッコク幹のフルコケ群落中 14-XII-1975
- 24. 北牟婁郡紀伊長島町海野神社 岩上の土上の
シゲウホウチコケ群落中 12-VIII-1962

(3) フスレナグモ

- 1. 松阪市大石町大石
神社
本殿石垣の間の陽
之中
8-IX-1975
- 2. 多気郡勢和村丹生
大師
石段付近の陽之中の
SPコケ群落中
27-IX-1975
- 3. 伊勢市豊川町(現
在本町)猿福寓宅
裏庭の軒下之中
23-VIII-1942

分布図を御参照
下さい。

分布図



- キシノウエトタテクモ
- キノボリトタテクモ
- × フスレナグモ

(27-II-1976)

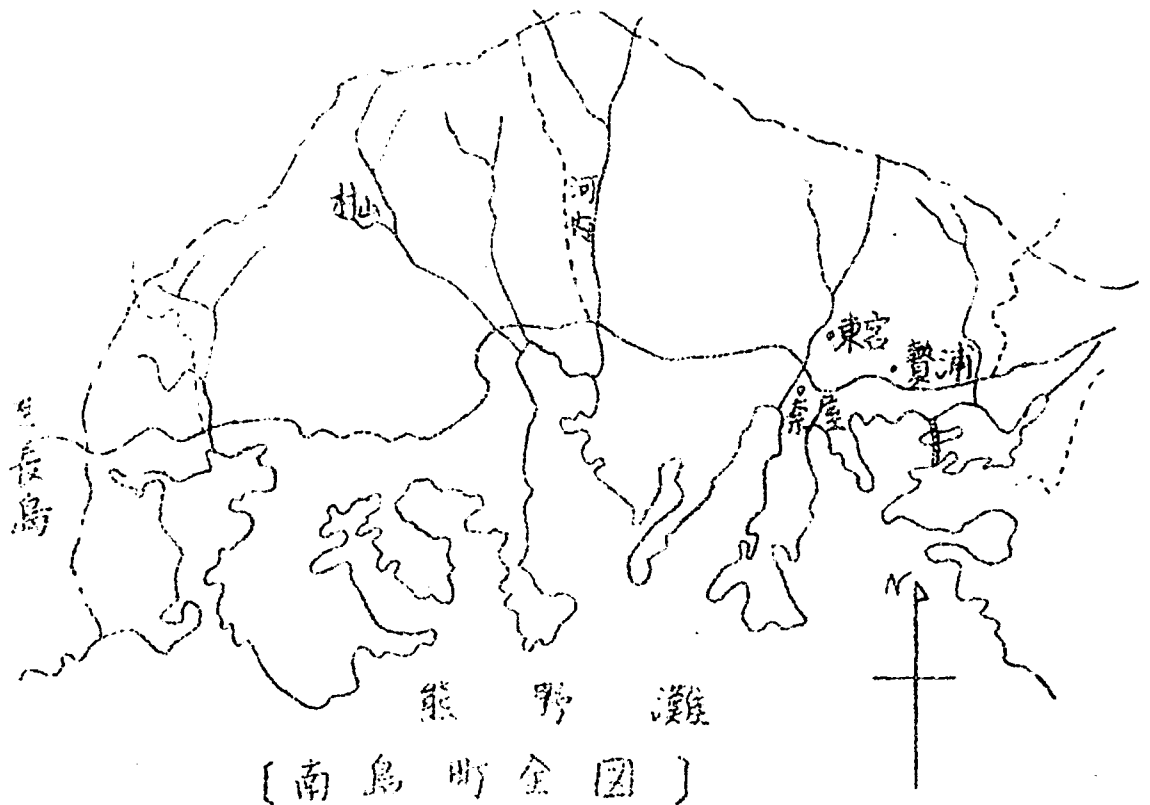
南島町における真正クモ類目録(第一報)

南島高校生物クラブ

調査期間は、1975年5月から12月(翌年1月)にかけて行ない、16科47属75種を採集することができたので、ここに報告させていただきます。

この標本の同定にあたり、御協力いただきました八木 昭健夫先生・橋本 理平先生・貝 登憲 治先生等に感謝の意を表します。

採集調査地
・ 賢浦 ・ 東宮 ・ 奈屋浦 ・ 河内 ・ 村山



[南島町全図]

(目録)

1. クモ目 1. ウズクモ科
1. ウズクモ *Uloborus varians* BOES. et SIK.
2. マキキクモ *Miagrammyes orientalis* BOES. et SIK. 8-IX-75 東宮
3. オウギクモ *Hypiptes affinis* BOES. et SIK. 13-IX-75 河内

2. ヒメグモ科

4. トビジロイソウワグモ *Conopistha cylindrata* (THORELL) 13-VII-'75 河内
 5. シロカネイソウワグモ *C. bonadea* KARSCH 13-VII-'75 河内
 6. ヤリグモ *Rhomphaea Sagana* (DORS. et STR.) 13-VII-'75 河内
 7. オナカグモ *Ariamnes cylindrogaster* SIMON 7-VI-'75 箕浦
 8. カレハヒメグモ *Erologia transversifoveata* BOES. et STR. 8-V-'75 東名
 9. ヒメグモ *Theridion japonicum* BOES. et STR. 13-VII-'75 河内
 10. アシトヒメグモ *Amelosimus crassipes* BOES. et STR. 13-V-'75 河内

3. サラグモ科

11. アシカサラグモ *Linyphia longipedella* BOES. et STR. 22-VI-'75 河内
 12. ノミミサラグモ *Neolinyphia fusca* OZ 11-VI-'75 河内

4. コサラグモ科

13. セズシバカムネグモ *Oedothorax insecticeps* BOES. et STR. 31-I-'76 河内

5. センシウグモ科

14. センシウグモ *Ero japonica* BOES. et STR. 22-VI-'75 河内

6. コウレイグモ科

15. コウレイグモ *Pholcus crypticolens* BOES. et STR. 13-VII-'75 河内

7. コガネグモ科

16. オニグモ *Araneus ventricosus* (L. KOEN) 3-VI-'75 東名
 17. ヤミイロオニグモ *A. fuscocoloratus* BOES. et STR. 8-VI-'75 東名
 18. アオオニグモ *A. pentagrammicus* (KARSCH) 11-V-'75 河内
 19. ヌサオニグモ *A. ejusmodi* BOES. et STR. 19-VI-'75 河内
 20. ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* (KARSCH) 11-VI-'75 河内
 21. トヨウオニグモ *N. daenitzi* (BOES. et STR.) 22-VI-'75 河内
 22. サワノミダマシ *N. scylloides* (BOES. et STR.) 22-VI-'75 河内
 23. フキグモサワノミダマシ *N. melloffeii* (SIMON) 22-VII-'75 村山
 24. カラフトオニグモ *Zilla sachalinensis* (SAITO) 18-V-'75 河内
 25. キマダラオニグモ *Z. flavomaculata* YAGIUMA 13-VII-'75 河内
 26. サカオニグモ *Z. astridae* (STRAND) 11-V-'75 河内
 27. コガネグモ *Argiope amoena* 8-VI-'75 東名
 28. シュウカクコガネグモ *A. aetherea* (WICKSTEADT) 27-V-'75 東名
 29. ナカコガネグモ *A. bruennichii* (SCOPOLI) 12-VII-'75 河内
 30. コガネコガネグモ *A. minuta* KARSCH 8-VI-'75 東名
 31. トリノフンダマシ *Cyrtarachne bufo* (BOES. et STR.) 8-VI-'75 東名
 32. アカイロトリノフンダマシ *C. yunoharumensis* STRAND 11-V-'75 河内
 33. サカグモトリノフンダマシ *Paraplectana Sakaguchii* YAGIUMA 6-IX-'75 河内

34. コウバクモ *Nephila clavata* L. KOCH 19-VI-'75 河内
35. コシクモ *Cyclosa octotuberculata* KARSTEN 8-VI-'75 東宮
36. コシクモ *C. sequeclata* KARSTEN 11-V-'75 河内
37. タニマルコウバクモ *Meta kompijensis* BOSS. et STR. 21-VII-'75 村山
8. アシナガクモ科
38. オオシロカクモ *Leucauge magnifica* YAGIYAMA 11-V-'75 河内
39. アシナガクモ *Tetragnatha praedonia* L. KOCH 7-VI-'75 賢浦
40. ヤサガクモ *T. japonica* BOSS. et STR. 11-V-'75 河内
41. キヌアサガクモ *T. laxa* YAGIYAMA 12-VII-'75 河内
9. キシクモ科
42. イオウイロハシクモ *Dolomedes sulfureus* L. KARSTEN 28-V-'75 河内
43. スズメハシクモ *D. pallidarius* BOSS. et STR. 7-VI-'75 賢浦
44. スズメハシクモ *D. niger* BOSS. et STR. 21-VII-'75 村山
45. ヤマシロカクモ *Pisaura strandi* KASAHARA 11-V-'75 奈屋
10. コモリクモ科
46. キクモ *Lycosa pseudoannulata* (BOSS. et STR.) 26-VII-'75 河内
47. カラフトコモリクモ *Trochosa texicola* THORNTON 29-X-'75 河内
48. キバコモリクモ *Pirata subpiraticus* (BOSS. et STR.) 20-VIII-'75 河内
49. カイサコモリクモ *P. piraticus* (CLERCK) 20-VIII-'75 河内
50. カラフトコモリクモ *P. clorckii* (BOSS. et STR.) 29-X-'75 河内
11. ササクモ科
51. ササクモ *Oxyopes scytelus* L. KOCH 11-V-'75 河内
12. クナクモ科
52. クサクモ *Agelena limbata* THORNTON 18-VII-'75 東宮
13. カニクモ科
53. ハナクモ *Misumenops tricuspidatus* (FABRICIUS) 19-VI-'75 河内
54. ハナクモ *M. yanohamensis* (BOSS. et STR.) 8-VI-'75 東宮
55. アズキクモ *Thomisus labefactus* KARSTEN 19-VI-'75 河内
56. ヤシロカニクモ *Xysticus croceus* FOX 13-VIII-'75 河内
57. トウバカニクモ *Tmarus piger* (WALCKENAER) 11-V-'75 河内
58. シカバクモ *Oxytate striatipes* L. KOCH 18-V-'75 河内
59. ヤトカリクモ *Thanatus fornicinus* (CLERCK) 12-VIII-'75 河内
14. ハエトリクモ科
60. アサシロハエトリクモ *Hasarius aJansonii* (AUDOUIN) 18-V-'75 河内

61. テニツハエトリグモ *Hasarius doenitzii* KARSON 20-VIII-'75 河内
62. ネハエトリグモ *Carrhotus detritus* BOES. et STR. 18-V-'75 河内
63. イキスハエトリグモ *Laufeia aenea* SIMON 11-V-'75 河内
64. オスクロハエトリグモ *Marpissa magister* (KARSON) 11-V-'75 河内
65. ヤハスハエトリグモ *M. elongata* (KARSON) 20-VIII-'75 河内
66. ウチブトハエトリグモ *Harmochirus brachiatus* (THORELL) 27-V-'75 東京
67. カラスハエトリグモ *Rhene atrata* (KARSON) 18-V-'75 河内
68. キスミハエトリグモ *Plexippus paykulli* (AUGURIN) 23-VI-'75 東京
69. ウスミハエトリグモ *P. incognitus* BOES. et STR. 11-V-'75 河内
70. アリグモ *Myrmarachne japonica* (KARSON) 17-VI-'75 東京
71. マミジロハエトリグモ *Erarcha albaria* (L. KOEN) 11-V-'75 河内
15. フクログモ科
72. カバキコマクグモ *Chiracanthium japonicum* BOES. et STR. 18-V-'75 河内
73. ハマキフクログモ *Clubiona japonicola* BOES. et STR. 22-VI-'75 河内
16. アシダカグモ科
74. アシダカグモ *Heteropoda venatoria* (LINNAEUS) 29-V-'75 河内
75. コアシダカグモ *H. forcipata* (KARSON) 28-V-'75 河内

[ALL 16科 49属, 75種]

.. 東亜蜘蛛学会第7回大会を津市で開催して

太田定浩

東亜蜘蛛学会の大会を三重県で開くようにという要請があったのは、第6回東京大会の折であったという。東京大会に出席された橋本、貝発両先生からその連絡をいただいた時、正直いって充足間もない基礎が十分かたまっていない三重クモ談話会で、全国から集まってこられる会員の方々に満足していただけるような大会が、果して開けるかどうか心配であった。

一昨年7月22日、予定の藤原岳採集会が夜来の雨でできなくなつたので、津新町駅前前の喫茶店で橋本、貝発両先生と私の三人が集って、第1回の打合せ会を持った。相談の結果、期日は昭和50年8月24日(日)を中心に2日間とし、場所は、宿泊、施設設備、交通の便、費用等から「洞津会館」でと決定、寄附金など望めない本県では、大会の運営費はすべて参加費でまかなうことなど決めて、その模様を八木沼先生に報告した。先生からは9月26日お電話を、28日には「計画準備など、お膳立てしていただければ、当日の任事は関西支部メンバーが応援しますから」という有り難いお言葉と、便箋も枚にわたる、大会開催についての諸準備の留意点、予算のことなど、かゆいとこに手の届くようなご指示をいただき、なお細かい疑問点はあるものの、大体の要領がわかって、大会開催の一念の見通しが得られた。津に住んでおられた貝発先生には、会場の予約をはじめ会計すべてをお願いすることになった。地の利? とはいえ、大変なことをお願いしたにもかかわらず、最後の決算まで快よくひきうけて下され、赤字もださず、大会を終ることができたのは、見えないところで、細かい気をつけていただいたおかげと、感謝の気持ち一杯である。

年がかわった昨年5月3日(土)第2回打合せを3人で津でする。ここで、大会要項の細部を決定、その他諸準備をさらに具体的に検討。八木沼先生に連絡するとともに、細かい点についてご教示いただく。なお、これより前、藤原岳自然科学館の清水実氏より、バスを提供するので大会参加者に鬼学に来ていただけないだろうかという願ってもない連絡をいただいていた。大会の日程の中に、できたら長島熱帯植物園の鬼学を組み入れて欲しいというお言葉を八木沼先生よりいただいていた

たものの、貸切バスの費用の払出に困難を感じていただけに、できれば、そのバスを利用して長島熱帯植物園へ行けないうかという虫のいいことを考えて、清水氏にお願ひしてみることにし、また、植物園の方も便宜とほかっていただけないかどうかお願ひしてみることにし、この交渉には私があつた。打合せ会後、早速、清水氏にお願ひすると快諾して下され、また、熱帯植物園の方は、三重生物教育会副会長であつた加藤波雄先生のご好意で、教え子のサニーツールド長島の営業部企画主任の河北公徳氏を紹介していただき、8月に入ってから面接お願ひに行き、パンフレット等資料をいただいたほか、大会当日、ご案内いただくなど大変はお世話をいただいた。

7月20日(日)第3回打合せ、橋本先生が大会の岷ベトナムへ行かれることがわかり、大会の諸準備を具発先生と私で行ふことになる。橋本先生は、大会に参加できないこと、とりわけ準備の仕事ができないことを非常に気にしておられベトナムへ行かれる前、大会準備の費用にと多額のご寄付をいただいたことは、大変ありがたかつた。7月25日には大阪からわざわざ八木沼、西川両先生のおいでをいただき、会場に「洞津会館」を見させていただくとともに、私達の準備に手落ちがないか、本部との最終打合せをし、特に大会当日の運営、時間設定など、私達では気がつかなかつたり、わからないことなどについて細部のご教示をいただいて、どうやら大会が開けようだという自信めいたものをもつことができた。

8月へ入つてからは、藤原岳自然科学館に、小、中学生を対象としたクモに関する啓蒙的展示のチャートづくりや、大会の配布資料を入れる封筒の印刷、保理科教育センターから、映写機等の借り上げ、大会プログラムかき、映写幕の作製(これには具発先生の婚約者—現夫人—のご協力もいただいた)、等、ほとんど具発先生が意欲的にとり組んでいただいた。

大会は折からの台風にわざわざいされたとはいえ、ご参加いただいた方々の熱意に支えられて、一応成功裡に終了できたと思う。これも、八木沼先生、西川先生のおかげと、清水氏、河北氏など多くの人達のご好意の賜とあつたため深謝し、さらに、終始、意欲的に準備から当日の細かい会場管理人との交渉そして会計を担当された具発先生に心から御礼を申し上げたい。

昭和50年度決算報告

。収入の部 28,687円

前年度繰越金 1,219円
 会費 6,500円 (500円×13人分)
 機関誌売上 3,100円 (200円×15冊+100円×1冊)
 寄付 17,868円 (東亜蜘蛛学会本部51年7回
 全国大会謝礼として)

。支出の部 9,843円

事務費 100円 (領収用ハガキ代)
 送料・通信費 1,330円 (切手・電話代)
 機関誌発行代 8,413円 (上質紙700円、
 表紙厚口色紙1350円、
 フック原紙・原稿用紙
 6363円、
 製本代・送料は来年度まわ
 します。)

。差引 18,844円

昭和51年3月31日

上記の通り相違ありません。

貝登憲治

◎会費領収 (敬称略)

昭和49年度 直居通泰
 昭和50年度 山川橋米夫、直居通泰、下市昇一。
 昭和51年度 高直居橋米夫、石川佳男、下市昇一。
 昭和52年度 高直居橋米夫、石川佳男、下市昇一。
 昭和53年度 下市昇一。

編集後記

本年度は東亜蜘蛛学会第7回全国大会が三重県で開催され、当漢語会々員の皆様の絶大なる御協力ののもとに、滞りなく成功裏に終わることができました。とうもありがとうございます。

たいへん遅くなりましたが「しのびぐも第3号」が完成いたしました。半年以上前から投稿していただいた方もありながら発刊がおくれ、たいへん申し訳ありませんでした。来年度も大いに頑張りましょう。ととして研究成果をお寄せ下さい。

しのびぐも 第3号 1975

昭和51年3月31日印刷

昭和51年4月30日発行

編集兼発行者 貝谷 嘉治

発行所

三重クモ語学会

三重県四日市市河原田町 四日市農業高校

TEL. 四日市 45-5021